

# 脱炭素経営フォーラム(2022年度)

## サプライヤーを起点としたバリューチェーン全体 を活用した排出削減の取り組み

## A G E N D A

1. 会社概要
2. 脱炭素経営促進モデル事業の取り組み
3. 今後の展望

# 1

会社概要

# 会社概要：加藤軽金属工業(1/2)

各種メーカーを顧客とする愛知県出身のアルミ押出型材企業

## 基本概要

|       |                                                                                                                                                                       |  |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 社名    |  <b>kato-light-metal</b> <ul style="list-style-type: none"><li>加藤軽金属工業株式会社</li></ul> |  |
| 事業内容  | <ul style="list-style-type: none"><li>アルミニウムの押出型材の製造及びその加工</li><li>アルミニウムを使用した製品の組立・販売</li></ul>                                                                      |  |
| 設立年   | <ul style="list-style-type: none"><li>1961年</li></ul>                                                                                                                 |  |
| 本社所在地 | <ul style="list-style-type: none"><li>愛知県海部郡蟹江町<br/>(西之森三丁目47番地)</li></ul>                                                                                            |  |
| 売上    | <ul style="list-style-type: none"><li>30億円</li></ul>                                                                                                                  |  |
| 従業員数  | <ul style="list-style-type: none"><li>85名</li></ul>                                                                                                                   |  |
| 役員    | <ul style="list-style-type: none"><li>代表取締役      加藤博穂</li><li>取締役          加藤大輝</li></ul>                                                                             |  |



# 会社概要：加藤軽金属工業(2/2)

各種メーカーを顧客とする愛知県出身のアルミ押出型材企業

製品の使用用途・納入先

| 業種                                                                                       | 割合(%) | 製品(例)                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 建材      | 40    | <div>• 建物/工事用壁材</div>                                       |
| 機械部品    | 15    | <div>• 機械/電機のケース/カバー</div> <div>• 機械/電機周辺の立入禁止柵等の付属品</div>  |
| 電機      | 15    |                                                                                                                                                |
| 輸送機器  | 10    | <div>• スキーキャリア等、<br/>自動車のオプション品</div>                      |
| その他   | 20    | <div>• ホワイトボードフレーム等のオフィス家具</div>                          |

# 2

脱炭素経営促進モデル事業の取り組み

# 【知る】脱炭素経営の方向性

買い手からのトレーサビリティや材質等の差別化を要求や政府からの環境保護規制への対応が求められる。  
アルミメーカーとしては、上記ニーズへの対応方法とコモディティからの脱却を検討する必要がある

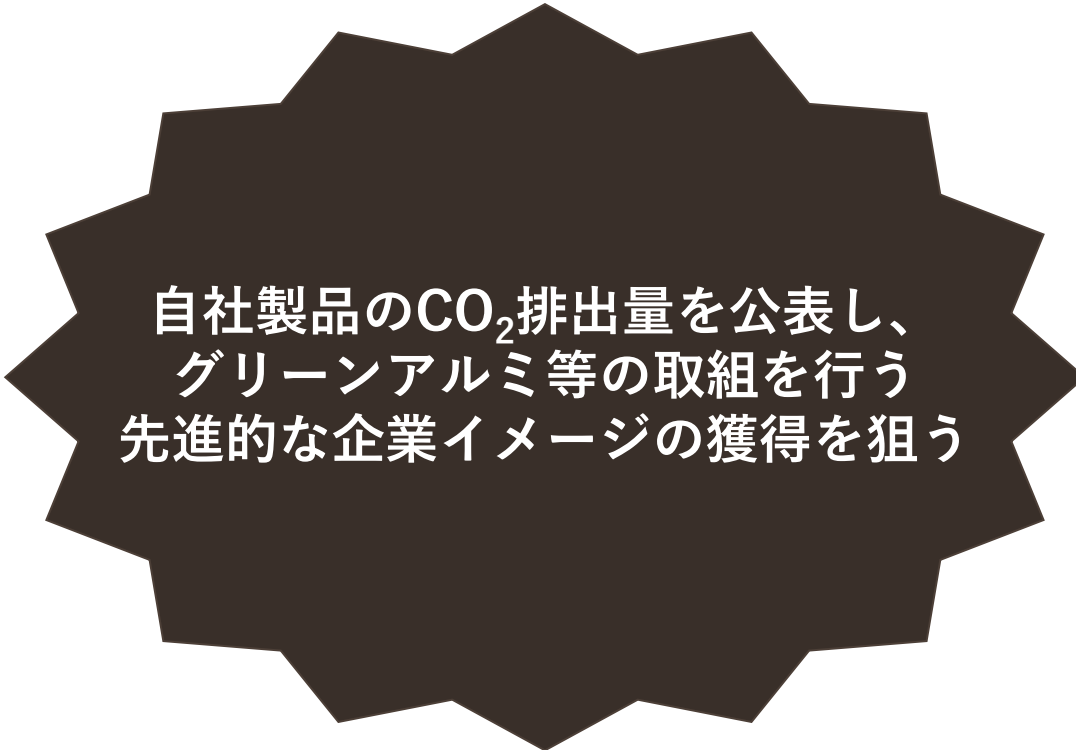
## 外部環境の変化

- 買い手
  - 製品単位のCO<sub>2</sub>排出量に対する透明性ニーズが高まり、対応可能な型材メーカーが限定され、**差別化余地が増加する**
- 売り手
  - グリーンアルミ地金へのシフト拡大に伴い、**取扱い業者が限定される**ことで、交渉力が強くなり、**調達価格が高騰**
- 新規参入
  - 事業認可取得の難易度が上昇する中でも、**海外の大手アルミ押出型材企業の日本進出**による脅威は引き続き存在
  - 代替材の脅威もあり、価格と低排出で対抗する必要あり

## 関係者の動向

- 政府
  - アルミ押出型材の製造においては**環境保護規制への対応も求められている**

## 脱炭素経営の方向性



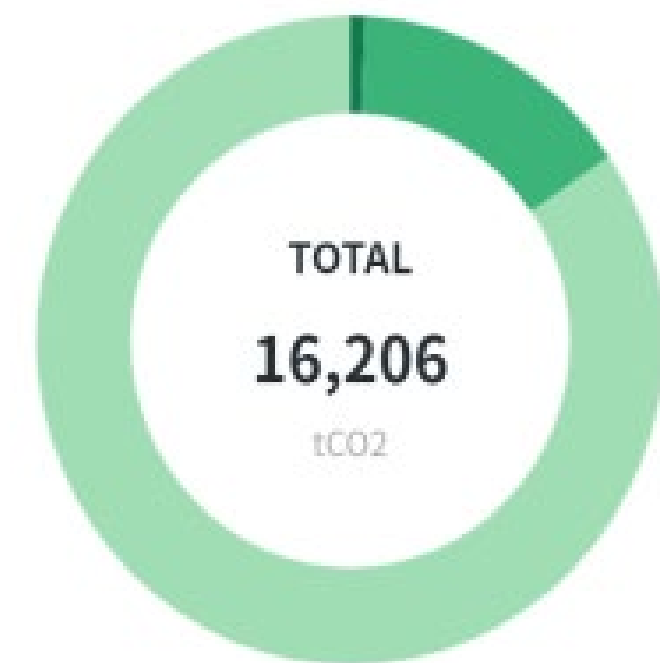
**自社製品のCO<sub>2</sub>排出量を公表し、  
グリーンアルミ等の取組を行う  
先進的な企業イメージの獲得を狙う**

# 【測る】 Scope1～3算出

Cayzen(エイトス社・ zeroboard)導入し、Scope 1 ～3算出

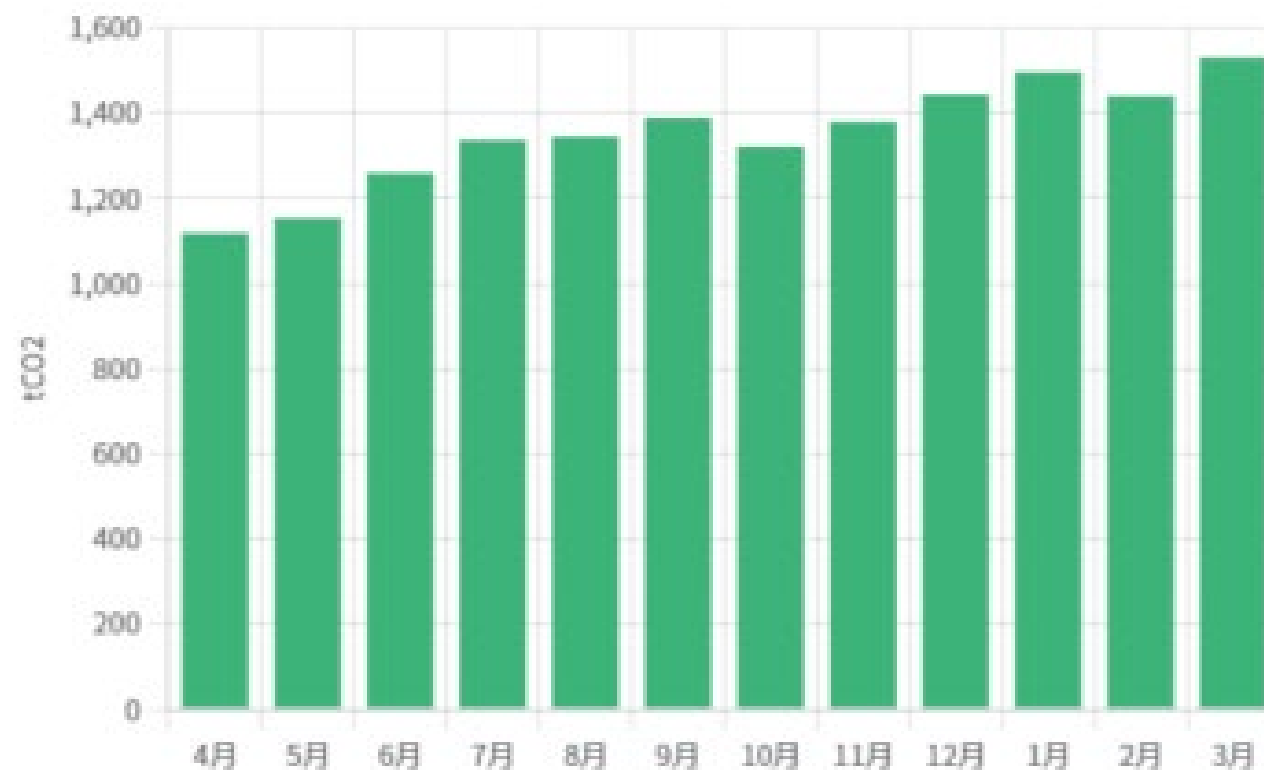
実際算出画面

CO2 総排出量



Scope1 Scope2 Scope3

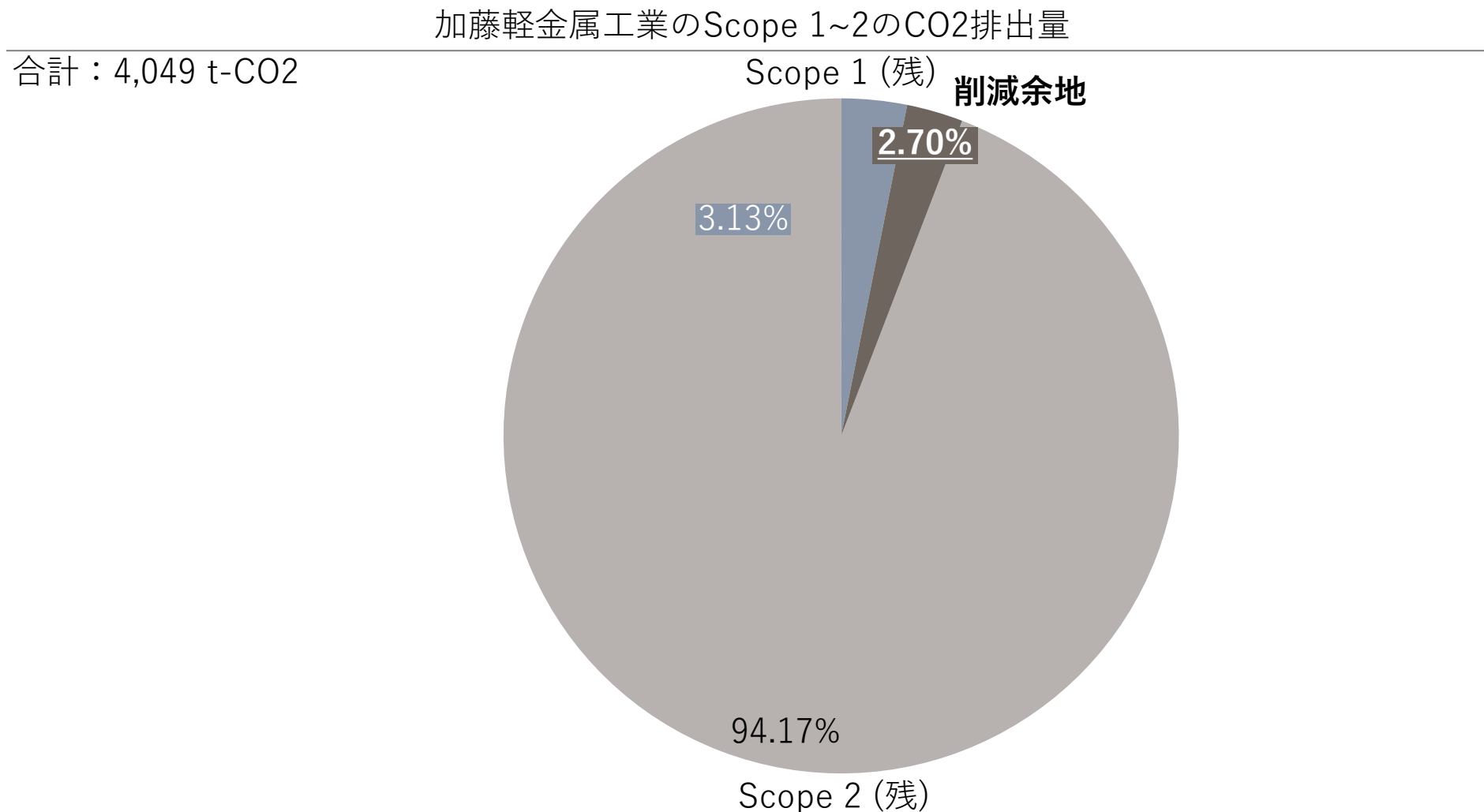
月間CO2排出量





## 【測る】 排出源の特定

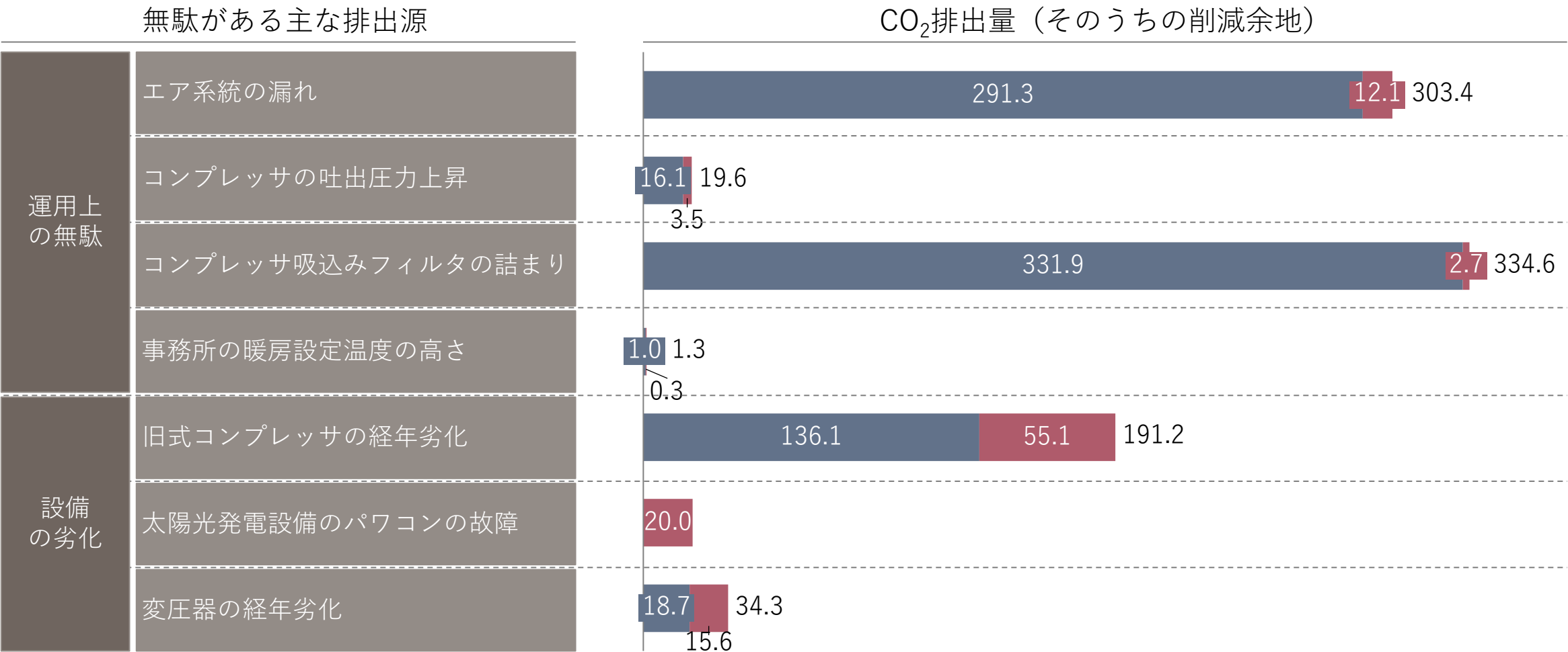
省エネセンター等の専門家に相談した結果、Scope 1~2ではもう**2.70%**の排出量削減しか見込まれない。  
加藤軽金属工業で抜本的な削減を実現するためにはScope 3に本格的に取り組む必要がある



# 【測る】 Scope 1,2削減余地の詳細

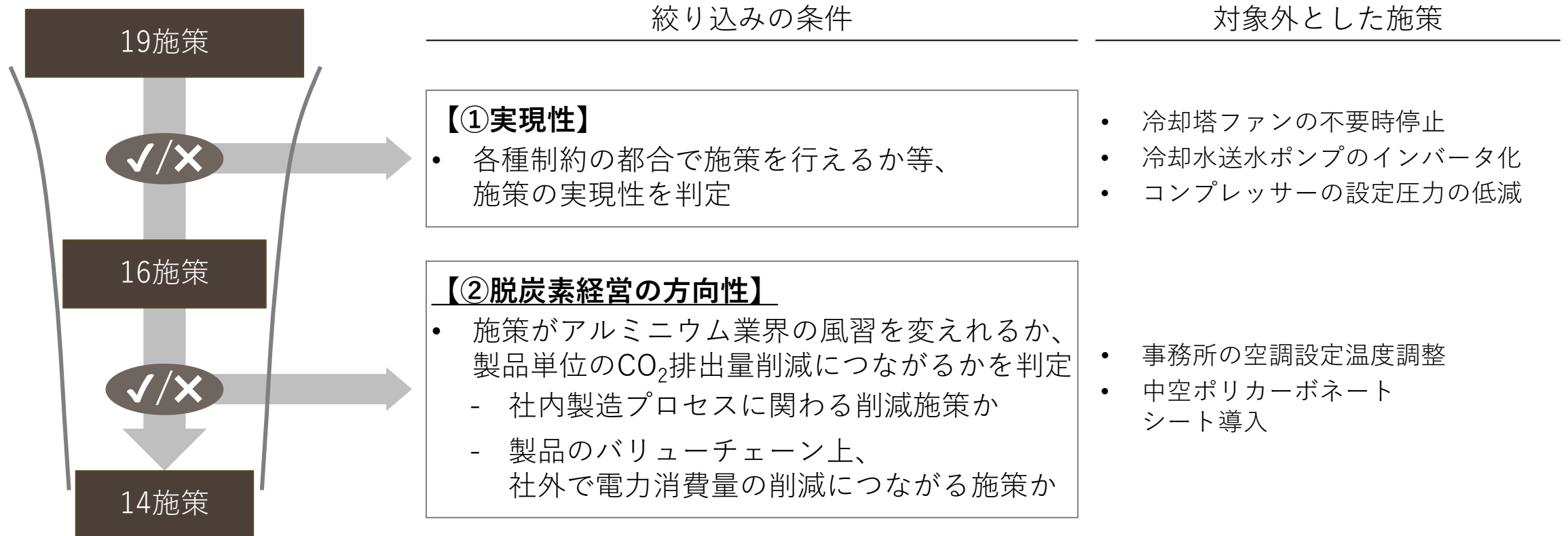


従来から製造工程の効率化や省エネ対策、太陽光パネルの導入などを実施しており、Scope1,2に係る排出量の削減余地は多くない



## 【減らす】削減対策の洗い出し

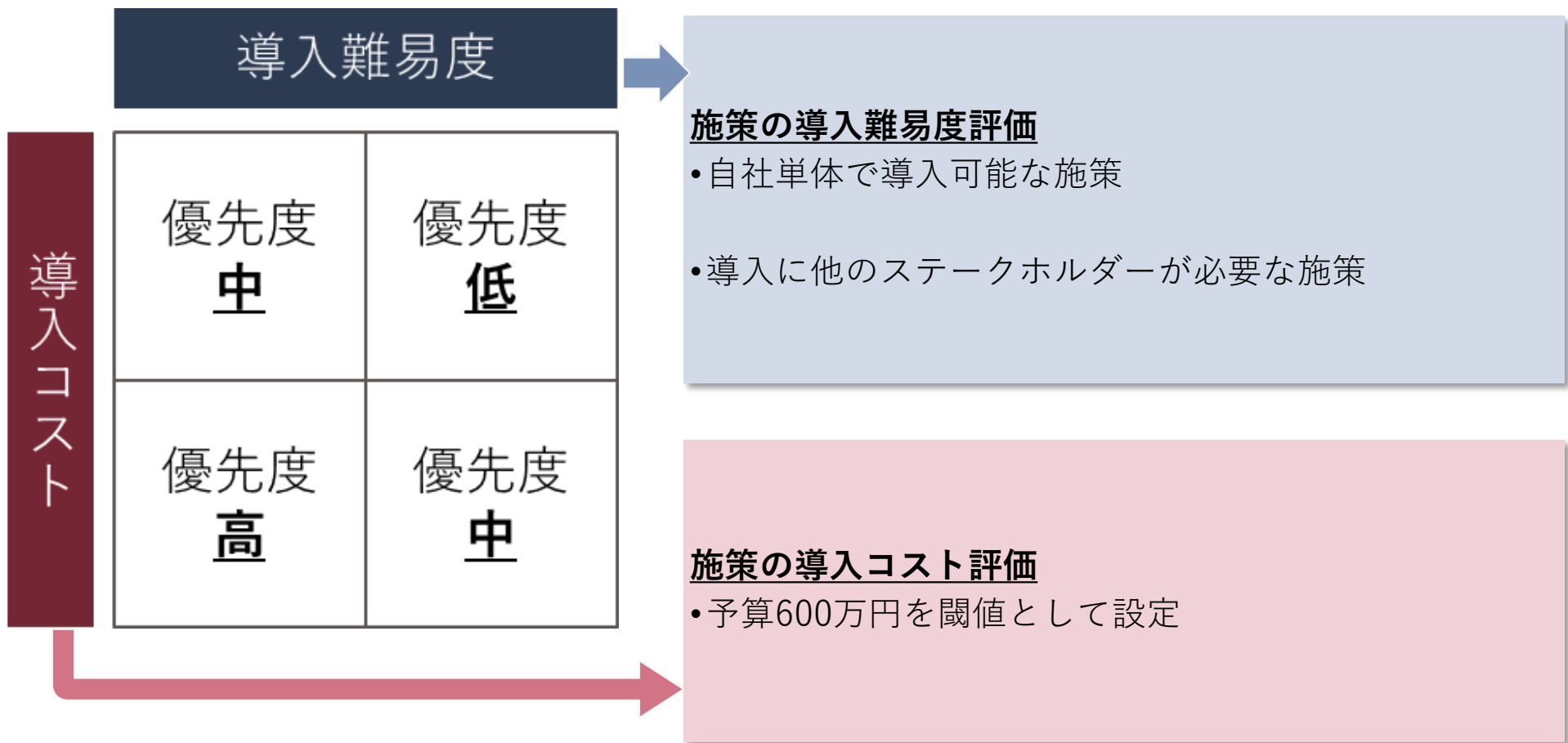
専門家への相談で得られた削減対策に加え、社内でScope 3 の削減対策に向けた施策の洗い出しを実施。  
各施策を①実現性と②脱炭素経営の方向性を踏まえ、絞り込んだ



## 【減らす】削減対策の評価

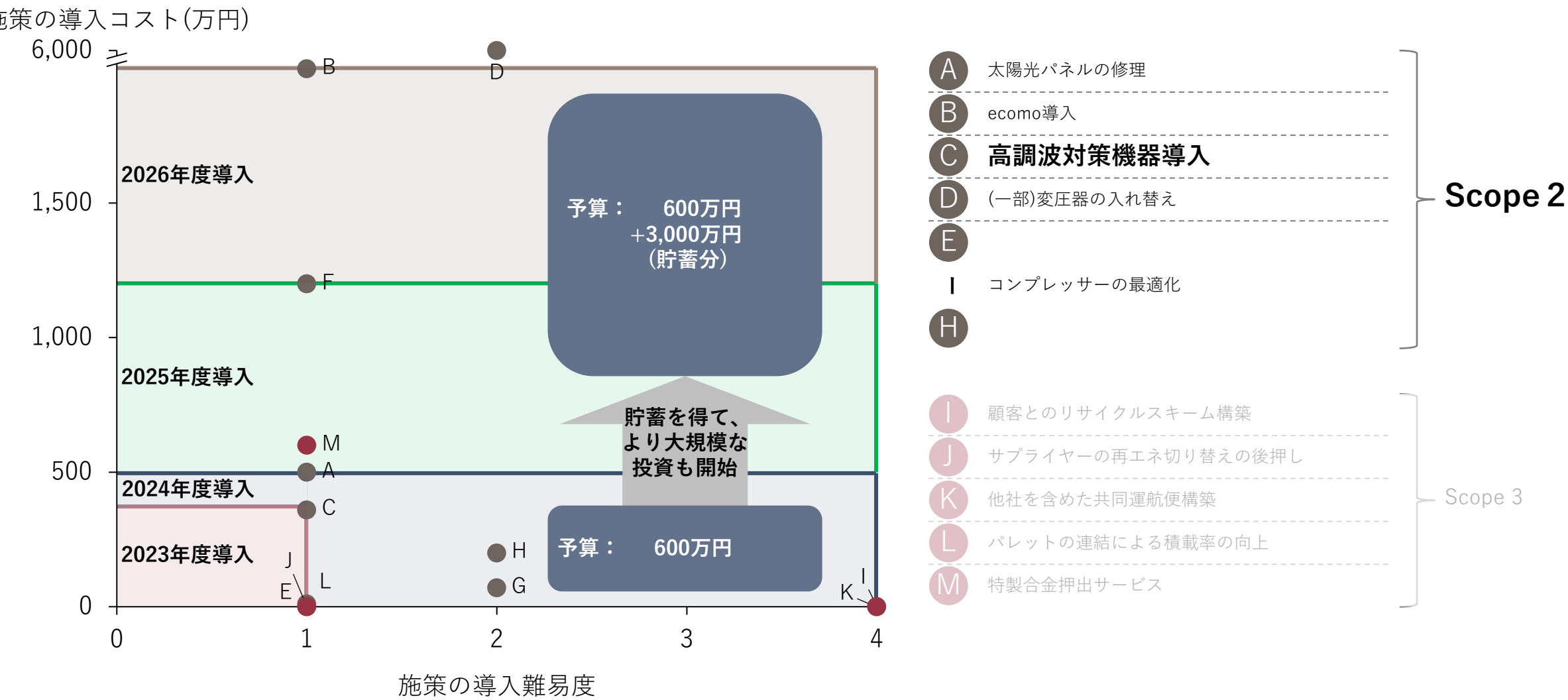
洗い出した削減対策に対し、導入コストと導入難易度を軸に、優先順位付けを実施

導入コストと導入難易度による優先順位付け



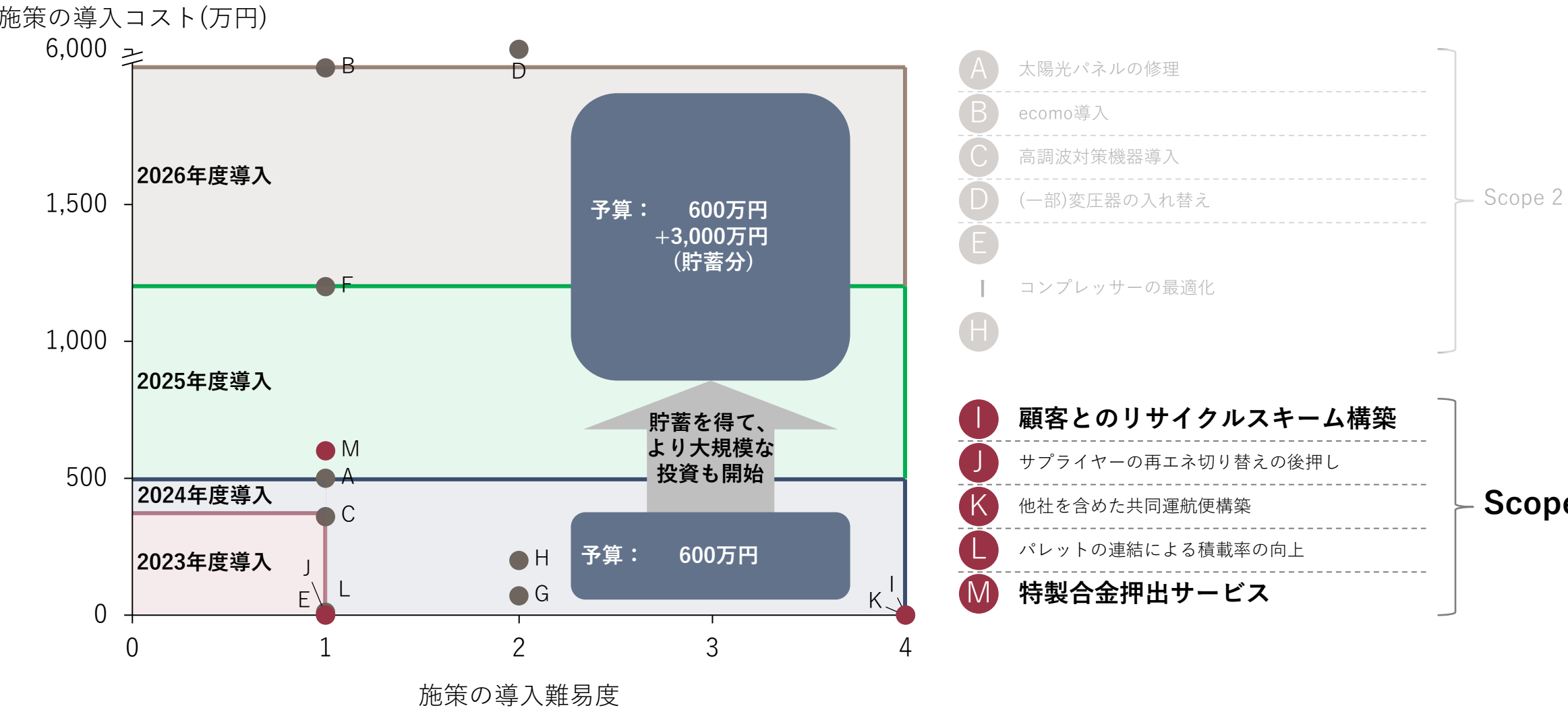
# 【減らす】 Scope1,2削減対策の導入計画

社内の意識改革に向けて、2024年度までには予算600万円以内の削減施策で徐々に脱炭素マインドを情勢し、2024年度の貯蓄を得て、2025年度以降は600万円の予算に加え、3,000万円程の投資を行う予定



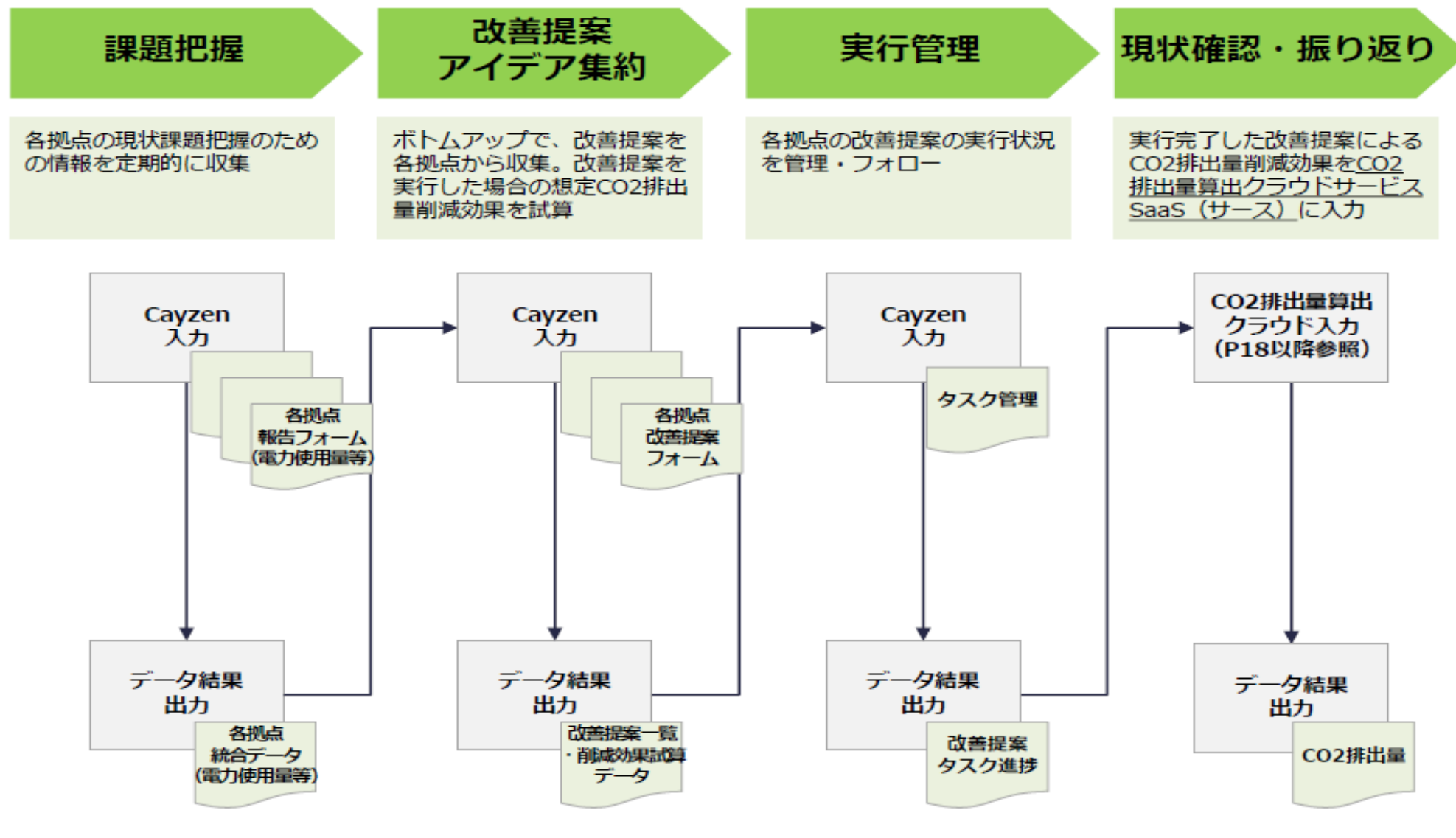
# 【減らす】 Scope 3 削減施策の導入計画

社内の意識改革に向けて、2024年度までには予算600万円以内の削減施策で徐々に脱炭素マインドを情勢し、2024年度の貯蓄を得て、2025年度以降は600万円の予算に加え、3,000万円程の投資を行う予定



# 【減らす】日々の改善活動

社員意識を高め、維持するためにCayzenを活用し、日々PDCAを回す



3

今後の展望



## 今後の展望(1/3)

### 社内意識改革



方針：役員だけではなく、全社員の意識を変えて大きな推進力を得る。

- CO2排出量の削減は役員陣主導ではなく、低コストで効果のあるものを意識の高い社員主導で実施させ、社員の意識を高め、高額投資に移行する
- Cayzenのシステムを活用し、改善状況と効果の見える化を行うことで、意識・動機付けを行い、社員の自発的な環境アクションの行動変容を狙う。

## 今後の展望(2/3)

新規事業/  
ビジネススキーム  
(利益/コスト削減に繋がる施策)

**方針：コストが高く、手間がかかる環境配慮商品・サービスを収益化する。**

- グリーンアルミ取扱：  
SDGsやCO2削減に興味がある企業向けに拡販中  
(副次効果として、HPでグリーンアルミの検索でトップ。HPから引合増)
- 少量押出特殊合金製造(開発)サポート事業：  
小ロット(20kg)で特殊合金を作り、無駄な合金製造を削減
- スクラップ回収⇒スクラップ再生ビレット等のビジネススキーム：  
コストが高い環境配慮ビジネスで価格が合うようにビジネススキームを構築

## 今後の展望(3/3)

### 課題解決

**方針 1：業界全体の文化・意識改革**

**方針 2：2024年から大規模投資や他社提携等根本的な課題の解決に取り組む**

- 業界・他社巻き込みために、**日本アルミニウム協会への働きかけも実施**
  - **低炭素原料の共同購入**：規模の経済で高単価な低炭素原料を調達
  - **若手経営者会**：全国から5社のアルミ押出型材企業の若手経営層を集め、排出量削減施策や技術継承等の経営課題の解決を目指す
  - **輸送2024年問題と共同運航便**：業界で輸送の効率化を図る。